

国語(現代文・古文) 同志社大学 全学部日程 [文系] (2/5実施) 1/3

<総括>

出題数	現代文 1題 ・ 古文 1題	試験時間	75 分
-----	----------------	------	------

都市における創造が未来のイメージをかたちづくるプロセスについて、複数の論者の理論を参照しつつ論じた文章からの出題。  
 前年度見られた追加文章のある設問は出題されなかった。前年度の同一日程の問題は設問が6つであったが、本文の内容を問う問題が1問追加され7つとなった。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	「創造と継承」 松尾浩一郎
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) ※6600字程度。前年度は本文が4500字程度。設問の追加文章は1000字程度。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	(一)	客観式	標準	慣用的語句の空欄補充問題 (「逆もまた真である」)。空欄の直前直後の段落を踏まえて考える。
		(二)	客観式	標準	傍線部についての内容説明問題。「都市」の位置づけの変化を捉える。
		(三)	客観式	標準	傍線部についての具体例を選ぶ問題。従来の「都市」における「未来のイメージ」を踏まえる。
		(四)	客観式	標準	傍線部についての内容説明問題。「都市」と「創造」の関係捉える
		(五)	客観式	やや難	傍線部についての内容説明問題。「都市」における「芸術」のあり方を捉える。選択肢の吟味で悩んだ受験生がいたかもしれない。
		(六)	客観式	標準	本文全体に関する内容合致問題 (2つ選ぶ)。
		(七)	記述式	標準	筆者の主張を記述する問題 (40字以内)。「都市」の「文化」と「創造性」をふまえつつ、「都市」における「未来」と「過去」のあり方をまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

・分量の多い文章を論理の展開にしたがって読み進め、意味段落ごとの内容を把握しながら全体の論旨をつかむ力を身につけるべく、日ごろから訓練をしておこう。  
 ・論述型の問題の対策としては、複雑な内容をできるだけ簡潔に表現できるよう、繰り返し練習すること。

国語(現代文・古文) 同志社大学 全学部日程 [文系] (2/5実施) 2/3

<総括>

出題数 現代文 1題 ・ 古文 1題

試験時間 75 分

- ・ 出題形式は従来通りで、本文と設問の難度も昨年とさほど変わっていない。
- ・ 本文分量は昨年度よりやや増加しているが、例年通りの長さである。
- ・ 本年度の出典は陰陽道の注釈書であるが、内容は安倍晴明を主人公とする話柄で、例年のこの日程に多い説話に近い性質の文章である。ただしこの日程も、昨年度の『うつほ物語』や2021年度の『桐の葉』のように、物語からの出題が時折ある。
- ・ 問題文は読みやすいものではあるが、設問を解くためには傍線部だけでなく、本文全体を見渡して解く必要がある。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	ほき 篋篋抄
頻出度合 ・ 的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) 約 1370 字 (前年約 1100 字)
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	注釈書	(一)	客観式	標準	語句の意味。a「参籠申し」b「丑寅」の意味を選ぶ。bは古典常識。
		(二)	客観式	やや易	説明。「そのゆゑに礼述をなし、竜宮へ請はる」の解釈を選ぶ。「その」の指示内容と、「竜宮へ請はる」主体の具体化、文脈からの状況説明がポイント。
		(三)	客観式	標準	解釈。「竜宮、『不思議の望みなるかな、もつとも出だすべし』と、すなはち給ふ」の解釈を選ぶ。「望み」の内実と副詞「もつとも」「すなはち」の語義、「給ふ」の訳出がポイント。
		(四)	客観式	標準	説明。「諸人、これを見聞き、不思議の由を申し、手を拍つことはかりなし」の説明を選ぶ。「これ」の指示内容と形容詞「はかりなし」の解釈がポイント。
		(五)	客観式	標準	文法。「取りたらん (には)」の「ん」と、文法的意味・用法の同じものを5つの選択肢の中から1つ選ぶ。
		(六)	客観式	標準	内容合致。6つの選択肢から2つを選ぶ。例年通り選択肢はどれも短い。
		(七)	記述式	標準	説明 (句読点とも 30 字以内で)。「『博士』の詞を給ふ」について、「博士」に任じられた理由を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・例年、語句の意味や傍線部の解釈問題、文法問題が出題される。識別を中心に付属語の意味を整理し、重要古語を中心に語彙力をつけておく。
- ・説話からの出題が多いが、物語から出題されることもある。普段からさまざまなジャンルの古文に慣れておきたい。
- ・和歌が含まれる出典や問題も散見するので、普段から和歌の学習をおろそかにしないこと。
- ・客観式の問題の難易度が標準的なので、最終設問の記述問題（30字以内）が合否の分かれ目になると思われる。設問条件をよく理解して、手際よくまとめられるように練習を積んでおくこと。「記述説明問題」といっても、国公立二次型とはやや異なり、30字という少ない字数でまとめる点は同志社に特徴的なものなので、過去問題で練習を積んでおきたい。
- ・常に正確な人物把握を心がけ、文脈全体の流れのなかで各設問を考えることが肝要である。